

歯科診療で知っておきたい 全身疾患の知識と対応

著 近畿大学医学部麻酔科学講座講師/日本歯科麻酔学会専門医 高杉嘉弘

A5判/カラー/426頁/定価9,450円(本体9,000円+税)

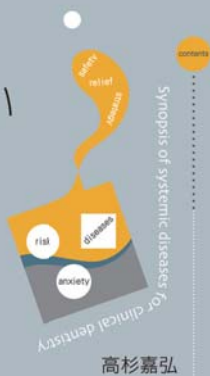
ISBN978-4-7624-0680-5

歯科診療で

知っておきたい

全身疾患の

知識と対応



偶発症を引き起こさない、安全な歯科治療のために

- ・疾患別、歯科治療を行うための手順
- ・歯科治療の前に押さえておきたい疾病の基礎知識
- ・歯科治療を行ってよい時期と全身状態
- ・歯科治療に影響を及ぼす服用中の薬剤

学建書院

- ・全身疾患患者の歯科治療のためのガイドブック
- ・知っておきたい患者管理のポイントと疾患の基礎知識

近年の医学の急速な進歩は、多くの全身疾患を抱える高齢者、また従来、治療が困難であった疾病に罹患している患者のQOLの向上に大きく寄与している。しかし、これらの患者に対して安全に歯科治療を行うためには、疾患について知るとともに、その治療についての十分な理解が必要であり、専門医との連携は欠かせない。

今日、さまざまなルートで疾患についての情報を得ることができるが、全身疾患をもつ患者の歯科治療についてのガイドブックがあれば、日常臨床の場でのすみやかな対応が可能となる。

本書は、**歯科臨床で出会う可能性のある全身疾患をもった患者が歯科診療室を受診したときの対応法、疾患についてのエビデンス、ガイドラインをもとにした知識、さらに疾患に関わる話題（基礎知識）**について多数収載した。日常診療に携わる歯科臨床医が、全身疾患をもった患者をみるときのガイドブックとして、臨床研修医、歯学生が全身疾患について学ぶためのテキストとして役立つ。

主要目次

1 モニタリング

◆モニタリングの基本

- 1 血圧測定
- 2 呼吸のモニタリング
- 3 心電図

2 循環器疾患

◆高血圧患者への対応

- 1 高血圧緊急症と切迫症
- 2 高血圧性脳症
- 3 脳卒中
- 4 二次性高血圧

◆虚血性心疾患患者への対応

- 1 狭心症
- 2 心筋梗塞
- 3 安定狭心症と急性冠症候群

◆不整脈をもつ患者への対応

- 1 徐脈性不整脈
- 2 頻脈性不整脈

◆心臓弁膜症患者への対応

- 1 僧帽弁膜症
- 2 大動脈弁膜症
- 3 三尖弁膜症
- 4 肺動脈弁膜症

◆大動脈解離・大動脈瘤患者への対応

- 1 大動脈解離
- 2 大動脈瘤

◆心筋症患者への対応

1 特発性心筋症

2 特定心筋症

◆成人先天性心疾患患者への対応

- 1 非チアノーゼ性心疾患
- 2 チアノーゼ性心疾患

3 代謝・内分泌疾患

◆糖尿病患者への対応

- 1 糖尿病
- 2 低血糖
- 3 高血糖性昏迷
- 4 メタボリックシンドローム

◆甲状腺疾患患者への対応

- 1 甲状腺機能亢進症
- 2 甲状腺機能低下症

4 血液疾患・凝固異常

◆血栓性疾患患者への対応

- 1 動脈血栓症
- 2 静脈血栓症
- ◆貧血患者への対応
- 1 鉄欠乏性貧血
- 2 巨赤芽球性貧血
- 3 再生不良性貧血
- 4 骨髓異形成症候群
- 5 特発性貧血
- 6 溶血性貧血

◆血小板減少症患者への対応

- 1 血小板減少症
- 2 血小板機能異常

3 血小板増加症

5 精神疾患

◆精神疾患患者への対応

- 1 うつ病
- 2 統合失調症
- 3 不安障害
- 4 パニック障害
- 5 強迫性障害(強迫神経症)
- 6 外傷後ストレス障害(PTSD)、急性ストレス障害
- 7 認知症
- 8 適応障害

◆てんかん患者への対応

- 1 全般てんかん
- 2 局在関連性てんかん

6 呼吸器疾患

◆慢性閉塞性肺疾患(COPD)患者への対応

- 1 慢性肺気腫
- 2 慢性気管支炎
- ◆気管支喘息患者への対応
- 1 気管支喘息
- 2 心臓喘息
- 3 咳喘息

7 骨格・結合組織疾患

◆膠原病患者への対応

- 1 関節リウマチ(RA)
- 2 全身性エリテマトーデス(SLE)

3 ベーチェット病

- 4 シェーグレン症候群
- 5 ビスホスホネート系薬剤関連顎骨壊死

8 腎疾患

◆腎不全患者への対応

- 1 腎不全
- 2 透析療法
- 3 腎移植
- 4 慢性腎臓病

9 脳血管障害・神経疾患

◆脳卒中患者への対応

- 1 脳梗塞
- 2 脳出血

◆神経・筋疾患患者への対応

- 1 パーキンソン病
- 2 筋萎縮性側索硬化症
- 3 ギラン・バレー症候群
- 4 多発性硬化症
- 5 重症筋無力症
- 6 筋ジストロフィー
- 7 ブリオン病

10 近位伝達麻酔法

- ◆偶発症を起こさない近位伝達麻酔法による下歯槽神経伝達麻酔のすすめ

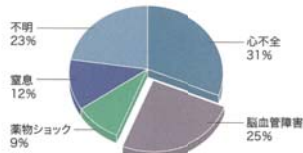
対診書の書き方

(2013年1月 発行)

高血圧患者への対応

- 1 初診時、診療前に血圧を測定する。
- 2 高血圧の既往、治療の有無を確認する。
- 3 歯科治療中の血圧が、160/100 mmHg未満であることを確認する。
- 4 局所麻酔は、血管収縮薬の使用限界値以下で行う。
- 5 急激または著しい血圧上昇(180/120mmHg以上)をみたときの対応

急激または著しい血圧上昇は、脳、心臓、腎臓、大血管などに急性の障害を引き起こす可能性があり、迅速な診断と対応が求められる。高血圧性脳症は最も重篤な高血圧緊急症で、適切に治療されないと、脳出血、意識障害、昏睡、死に至る。日本歯科麻酔学会の調査によると、一般歯科診療所で起きた死亡例の23%が脳血管障害であり、そのほとんどが脳出血であったと報告されている。心不全を含めると、歯科における医療事故の58%が循環系に起因する¹⁾。



● 歯科診療における死因分類 ●
日本歯科麻酔学会調査 45 例と、新聞報道などによる計 57 例の分類
(金子 謙：歯科医療の安全確保のために—救急救命処置・AEDと歯科診療—、日本歯科医師会雑誌 57:1069-83, 2005 より)

1 初診時、診療前に血圧を測定する

頭痛、肩こり、めまいなどの自覚症状がなくても、40 歳以上の男性患者、50 歳以上の女性患者の場合、高血圧の有無を確認する。

高血圧患者は全国で約 4,000 万人、正常高値血圧者を合わせると約 5,500 万人と推定される。高血圧の有病率は、加齢とともに増加する、男

偶発症を引き起こさない、安全な歯科治療のために

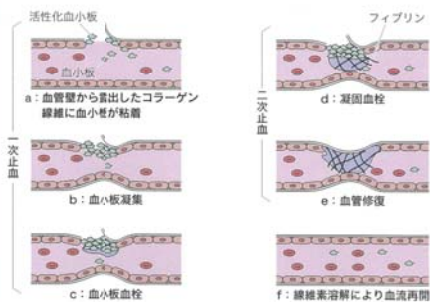
- 疾患別、歯科治療を行うための手順
- 歯科治療の前に押さえておきたい疾病の基礎知識
- 歯科治療を行ってよい時期と全身状態
- 歯科治療に影響を及ぼす服用中の薬剤

血小板減少症

ヒトの血管系に閉鎖系であり、血管が破綻して閉鎖循環系から血液が漏出しつづけると、生命を維持することができない。止血機構は、血管の破綻部位での血栓形成や血管修復によって閉鎖循環系を維持するための防御機構である。とくに血小板は、初期の止血反応できわめて重要な働きをするとともに、一連の止血線溶反応を誘導するために必須の血球である。このため血小板数の減少または血小板機能の異常は、一次止血に異常をきたし、出血傾向が現れる。

1 止血のメカニズム

血管内皮は血漿を凝固させないために、トロンボモジュリン、ヘパリン様物質（ヘパタン硫酸）、プロスタサイクリン (PGI₂)、一酸化窒素 (NO)、組織プラスミノゲンアクチベーター (t-PA) などの抗血栓性物質を産生している。このため通常、血管内を流れている血液は凝固しないが、血管が破綻して血液が血管外に流出すると、次に示す3段階の止血機構によって閉鎖循環系が維持される。



● 止血のメカニズム ●

として、照会に対する情報提供が歯科治療に有効であったかを知ることは、歯科治療についての理解を深めることができるとともに、その後の情報提供時の参考とすることができる。

情報提供を受けたあと、歯科医師の判断によって歯科大学など、ほかの医療機関に患者を紹介するときは、対診先の医師に対して、その理由と経過について報告し、了解を得る。また対診先から得た患者の情報を、ほかの医療機関に提供するときも了承を得る必要がある。

他科に対する対診書の例

対診書の書き方にルールはないが、対診する専門医の貴重な時間をお借りするのであるから、「ここまでのことは対処可能であるが、これこれについては専門医の専門的な助力をお貸し願いたい」と、簡明に理由を明示し、依頼する内容を明確に記載することが必要である。

コントロールされていない高血圧患者の高血圧治療の紹介状

いつもお世話になり有難うございます。

患者 ○○○様の局所麻酔下での智歯の抜去を予定しております。以前より高血圧を指摘されておりましたが、これまで治療を受けておらず、本院で血圧を測定したところ180/110 mmHgでした。ガイドラインでは、侵襲を伴う歯科治療では140/90/90 mmHg以下に血圧がコントロールされていることが必要であるとされています。本患者の抜歯は、高血圧がコントロールされたあとに行いたいと考えており、貴院にて高診、ご加療のほどお願いいたします。

喘息患者に対する歯科治療についての依頼状

いつもお世話になり有難うございます。

貴科受診中の患者 ○○○様につきましてご照会いたします。局所麻酔下での顎頰治療を予定しております。患者は、喘息発作によって数回入院加療を受けた既往があり、現在、貴科により喘息に対する内服、吸入治療を受けておられるとのこととです。1週間ほど前より、風邪症状とともに喘鳴を自覚されております。

現在の喘息の状態についてご高診いただきたく存じます。また発作時の対応、歯科治療中の注意点などにつきましてご教示いただければ幸いです。ご高診ならびにご教示のほどよろしくお願い申し上げます。

■ お取扱いは